

ありがとうの灯中

学校便り第14号
令和7年5月16日
福井市灯明寺中学校



今世の中で、「教育界はブラック」という言葉が使われるときがあります。耳にした人もいるかと思います。そのため、教職員のなり手不足が現在全国的に社会問題にもなり、教員採用試験の倍率が1倍を切る都道府県も出てきています。本当に、悲しいことです。でも、私は大きな声で世の中の人たちに、次のように伝えたいと思います（実際は無理ですが）。「そんなことはない！灯中においては、決して、ブラックではない！」と。。

先日、本校の指導部長が給食の時間のときに、次のような放送をしました。「給食中失礼します。実はとても嬉しいことがあったので、生徒の皆さんにぜひ伝えたくて放送させてください。」と切り出し、朝、生徒玄関に散乱していたつばめの糞を生徒の誰かが自主的に水で洗い、他の生徒が来る前に綺麗にしてくれたこと（なんと後で分かったことに、2年生でその掃除をするために家から雑巾を持参したとのこと）。また、先週風が強いときに、自転車小屋内で倒れていた自転車を一生懸命に元に戻していた3年生のことを、とても嬉しそうに、そして、その生徒たちの心と実行力に感謝しながら心を込めて伝えていました。私は、その話を聞きながら思わず目頭が熱くなりました。この心ある生徒たちもそうですが、指導部長が生徒たちの輝く姿、人として実に素敵な姿を、全校放送で紹介している今の灯中（事実）にとっても幸せ感と感謝の想いで一杯になりました。

私は16年前にこの灯中に教諭として勤務していましたが、指導部長の話はほとんどが事件やトラブルについてのもので、「～すべき」や「～しなさい」という説教的な話ばかりでした。確かにそれらの話は事実ゆえ、指導部長が毅然と叱ることは当然だと思っていましたが、全校や学年が集められる度に「またか。。。と暗い気持ちになったのも事実です。しかしです。今の灯中では、昨年度の3年生しかり、今の3年生もそうですが、先輩たちが「正しいこと」「すべきこと」を言われて行うのではなく、多くの生徒が自ら自主的に主体的に正しく行動できる生徒たちに成長しています。事実として、私は現校の前に2年間小学校の校長として勤務していましたが、その当時6年生だった男子生徒（現本校3年生）が、先日の清掃時間のときに、今年入ってきた新入生の男子生徒に対して（ちなみに、どちらもよく注意されていた男の子たちです）、次のように言いました。「俺、もう真面目になったんやで、おまえもちゃんとしろや！！」です。私はこの3年生の男子生徒こそ、本当の意味での『先輩』であり、人の道で大切となる掃除（人が嫌がること）を一生懸命にできるまでに成長したことに感動し涙が出ました。これぞ！教育！人を正しく変容させてこそ教育！生徒を人としてきちんと自立させ、心ある人へと成長させる『ありがとうの灯中』を具現化できつつあることに、ただただ、この3年生の男子生徒に感謝の想いで一杯でした。だからこそ、今校長として、胸を張って世の中の人たちに言いたいです。「教育界はブラックではなく、『ブライต์ (bright)』ですよ！」福井市灯明寺中学校長 佐藤 勉 (Big Ben)

< 母校（小学校）での挨拶運動 >

5月8日（木）と9日（金）の朝に、母校の小学校を訪れて「挨拶運動」をしました。今年は参加希望者があまりにも多く、この春は1年生と3年生に絞り、秋に再度行うときに2年生の参加としました。初日はまさに五月晴れのとても清々しい天候の中での実施となり、2日目は少し曇りの肌寒い天候となりましたが、両日とも「明るい、爽やかな挨拶運動」を行うことができました。引率した先生方からは、どの学校でも灯中生も小学生も実に良い表情で、お互いに笑顔で「挨拶＝心の握手」をしていたとのこと。やはり人は人で育ちますね。今回自主的に参加してくださった皆さんに拍手！

